

GINGA REPORT 401

No.69
2021.02

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和3年2月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

2月の星空

星図：ステラナビゲータ9/(株)アストロアーツ

冬のダイヤモンド

冬は明るい一等星が一年で最も多く輝く時期です。南を向いて、右の図を空にかかげると、七つの一等星から六つの星座を見つけることができます。

このうち、オリオン座のリゲル、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルックス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバランをつなぐと、冬のダイヤモンドの出来上がりです。

ぎょしゃ座

冬のダイヤモンドに含まれる星座のうち、最も聞き慣れない星座はぎょしゃ座ではないでしょうか。88星座のうち、おそらく最も言いにくい名前です。

漢字で書くと御者座。馬車の運転手を意味します。こう聞くと地味な感じもしますが、ギリシャ神話では、馬車を発明し戦争で活躍したエリクトニウス王だといわれています。

※

2月15日21時の星図

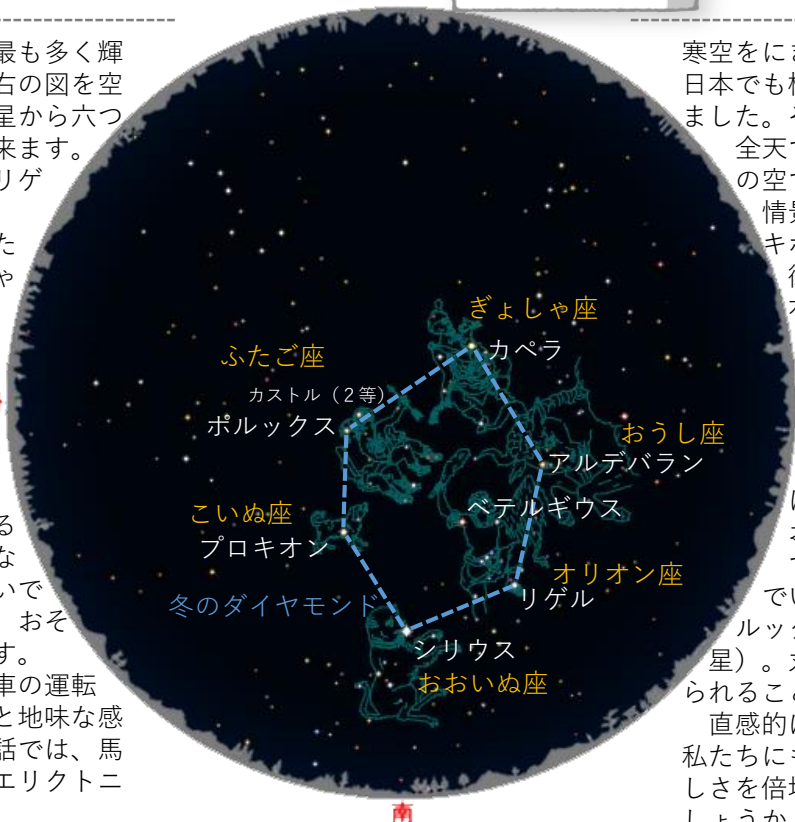
和名で感じる冬の星

寒空をにぎやかに彩る冬の星たちは、日本でも様々な呼び方で親しまれてきました。その一部をご紹介します。

全天で最も明るいシリウスは、冬の空で輝く真っ白な星です。その情景にぴったりな和名としてユキボシ（雪星）。他にも色が特徴的な星として、おうし座の右目に輝くアルデバランは、アズキボシ（小豆星）と呼ばれていました。

星の並びで面白い呼び名を持つものもあります。オリオン座の腰に並ぶ三つの星は、ミタラシボシ。串刺しのお団子というわけです。対して天頂付近で二つ仲良く並んでいるふたご座のカストルとポルックスは、メガネボシ（眼鏡星）。丸いものを並べた姿に見立てられることが多いのかもしれませんが。

直感的につけられた和名は、現代の私たちにも親しみやすく、星を探す楽しさを倍増させてくれるのではないでしょうか。



2月のガリレオ教室

今年注目の天文現象

冬の空は生まれたばかりの星、年老いた星などさまざまな星が見られます。この時期見られる魅力的な天体たちから、星の一生を学びましょう。

日時：2月14日（日）

- ① 11:00～11:20
- ② 14:00～14:20

場所：5階 コズミックラウンジ

料金：無料

定員：14名



今月の天文トピック

124年ぶり！！節分が2月2日へ移動！？

節分は2月3日と思われがちですが、実はこの日付は固定ではありません。節分は立春の前日とされます。この立春の日が変わってしまうのです。

立春は中国から伝わった「二十四節気」の一つです。二十四節気は季節を24分割する考え方で、地球と太陽の位置を国立天文台が調べて決定します。ではなぜ二十四節気がずれてしまうかということ、地球が太陽の周りを公転する周期が365日と約6時間とされており、約6時間ずつ遅れが生じるためです。この遅れのために4年に一度うるう年を挿入するのですが、それでも少しずつズレてしまい、今回のように節分の日が変わることがあります。

2月2日の節分は1897年以来、124年ぶりのこと。季節の変化にあわせて太陽の動きも感じてみましょう。



スターウォッチング

博物館主催きらら号観望会

日時：2月27日（土）19:00～20:30

場所：博物館前市民公園

内容：満月と火星を見よう



編集後記

当館では星空以外でも季節を感じてもらえるよう、プラネタリウムに投映する景色を季節ごとに変化させています。例えば秋は紅葉した山、夏はひまわり畑というように。

現在ファミリー番組にて投映されている雪景色を見ていただければ、ユキボシがその冷たく美しい輝きを増すように思えるはず！プラネタリウムで、さまざまな季節感を感じてみませんか。

2月の月

5日  下弦

12日  新月

20日  上弦

27日  満月

※天候不良時は中止です。
※当日受付・参加無料です。
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。